



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

92.2.21 No.3543

闘争当日 第2の分割民営化粉碎 2・21ストライキ貫徹!

具体的要求

- 一、九二・三ダイ改に伴う合理化案を撤回し、運転保安確保を最優先して組合要求に基づく労働条件の確立を図ること。
- 二、組合差別をやめ、強制配転者の原職復帰および、運転士資格保有者の士職登用の展望を具体的に明らかにすること。

ストライキ時間及び対象者

- (1)、二月二一日、全本線運転可能運転士を対象とする九時より一五時までのストライキ。
(但し、貨物及びいすみ鉄道は除く)
- (2)、新小岩機関区、構内・仕業及び事務係を対象とする、一三時以降一時間の時限ストライキ。

本日われわれ動労千葉は、昨年の一一・二二―二六ストに引き継いで、「JR五万人体制」粉碎、勤務制度改悪、勤乗勤改悪攻撃である、第二の分割・民営化反対闘争の突破口の闘いである全本線運転可能運転士を対象としたストライキに決起した。

JRをめぐる情勢は、「国鉄分割・民営化」の解決なき矛盾の淵で、会社側はその「解決」の方途を、①「JR鉄道部門五万人体制」という鉄道事業そのものの考え方を根底から変える大合理化(首切り出向攻撃)と、②JR総連の分裂に象徴される労務政策の変更に求めている。

動労千葉は、国鉄労働者の魂の真髄を示したあの一波―二波の闘い以降、JR体制移行後もさまざまな闘いまでの組織破壊攻撃を受けてきた。

今こそ積年の怨みを倍化させ、労働者に「死を強制」するJRの新たな攻撃「JR五万人体制」に対し、闘う動労の再建―国鉄労働運動の復活―反転攻勢の闘いへ一丸となつてうって出た。

二・二一ストの貫徹を通して、JRという時計のネジを労働者の側から逆転させよう!
JR内で苦闘する全労働者に、人間らしく働ける職場状況を作る展望を示そう!

全国労組交流センター 第五回全国代表者会議 助走から力行へ!

二月一五日・一六両日開催された「交流センター―全国代表者会議(一大会)―は、会場の熱海国民宿舎「ビレッジ」の大会議室をうづめ、熱気とやる気に満ちあふれた大会として成功裡に勝ちとられた。

佐藤・中野両代表の挨拶のあと、水野事務局長と事務局から一年間の闘いの総括と方針・財政方針が長時間にわたり一括提起され、ただちに討論に入る。一斉に発言を求め手があがる。総括討論は主に昨年の反戦、PKO闘争の闘い・教訓が生きてきと語られた。

特に、掃海艇弾劾闘争を闘い抜いた広島の間とPKO反対横須賀駅前連日座り込み闘争を貫徹し大きな反響をつくりだした神奈川の会員からの報告は、闘った者のもつ自信と確信が直に伝わってきた。

その他、「交流センター」に結集して本当によかつた「昨年の反戦闘争を闘い抜く中から我々の課題、方向性がはっきり見えてきた」等々真剣な発言が次々と行われ、交流センター―結成から五年目にして、いよいよ本格的飛躍期を迎えるまでに成長した印象を強くもつた。

二日目は、九二年の闘争課題について論議が交わされ、結論として諸闘争を闘いながら、その中で当面二千名会員獲得に全力を尽くすことが満場一致確認され、最後に運営委員の選出・決意表明が行われ、興奮さめやらぬなか全国に散った。

尚、動労千葉から代表運営委員に中野委員長、事務局長に水野執行委員、事務局次長に滝口執行委員が選出された。

交流センターの強化・拡大は、九〇年代の勝利にとって不可欠の課題である。動労千葉はその先頭にたつて奮闘しよう!